



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月8日

上場会社名 株式会社イントランス 上場取引所 東
 コード番号 3237 URL http://www.intrance.jp/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)濱谷 雄二
 問合せ先責任者 (役職名)管理本部 (氏名)関本 秀貴 (TEL)03(6803)8100
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日~平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	184	△7.6	△56	—	△68	—	△81	—
30年3月期第1四半期	200	△90.2	△44	—	△52	—	△33	—

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 △81百万円(—%) 30年3月期第1四半期 △33百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	△2.19	—
30年3月期第1四半期	△0.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	6,432	2,874	44.7
30年3月期	6,030	2,955	49.0

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 2,874百万円 30年3月期 2,955百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日~平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,700	2.9	280	—	220	—	80	—	2.16

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

31年3月期1Q	37,131,000株	30年3月期	37,131,000株
31年3月期1Q	60,400株	30年3月期	60,400株
31年3月期1Q	37,070,600株	30年3月期1Q	37,070,600株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和政策を背景に引き続き緩やかな回復基調にはあります。しかしながら、米国の経済政策や近隣諸国における地政学的なリスクの高まり等の不安定な要素が目立ち、先行きが懸念される状況が続いております。

当社グループの属する不動産市場におきましては、消費増税に向けて優良な不動産の売買価格は高値で推移するなど、厳しい物件取得環境が継続しておりますが、地価の公示価格においては三大都市圏平均で住宅地、商業地ともに昨年に引き続き上昇しました。商業地におきましては、東京、大阪、名古屋ともに6年連続の上昇となりました。主な要因として、低金利等により資金調達環境が良好なことや、主要都市の中心部ではオフィスの空室率低下傾向、外国人観光客の増加による店舗、ホテル需要の高まり、賃料の改善が見られたことで投資用不動産への需要が強まったことによるものです。

このような状況下、当社グループでは、投資対象とする不動産の潜在的価値を高めたうえで販売を行うプリンシパルインベストメント事業、プロパティマネジメントサービス（物件ごとのニーズに合ったオーダーメイド型の入居者管理代行サービス）、及び賃貸事業や不動産賃貸・売買の仲介業務を行うソリューション事業、並びに当社の連結子会社である株式会社大多喜ハーブガーデン（以下、大多喜ハーブガーデン）にて、ハーブガーデンの運営を行うその他事業にそれぞれ注力してまいりました。

しかしながら、当社が保有する販売用不動産につきまして、当第1四半期連結累計期間での売却に至らなかったことから、売上高は184,833千円（前年同四半期比7.6%減）、営業損失は56,079千円（前年同四半期は営業損失44,265千円）、経常損失は68,755千円（前年同四半期は経常損失52,030千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は81,093千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失33,066千円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

（プリンシパルインベストメント事業）

プリンシパルインベストメント事業につきましては、保有物件の積極的な販売活動に取り組んでまいりましたが、売却予定先の社内調整が難航し折り合いがつかず、売上を計上するには至りませんでした。一方、仕入活動につきましては東京都新宿区所在の利便性の良い好立地な宅地分譲地を取得いたしました。

この結果、売上高は一千万円（前年同四半期の売上高は一千万円）、セグメント損失（営業損失）は20,186千円（前年同四半期は19,352千円の営業損失）となりました。

（ソリューション事業）

ソリューション事業につきましては、プロパティマネジメントサービス事業において賃貸仲介手数料収入は減少したものの、賃貸事業において安定した蓮田ショッピングセンターの賃料収入及び和歌山マリーナシティ内3施設の配当金収入を計上しております。

この結果、売上高は133,752千円（前年同四半期比8.9%減）、セグメント利益（営業利益）は50,174千円（前年同四半期比16.1%減）となりました。

（その他）

連結子会社の大多喜ハーブガーデンが運営するハーブガーデンは、継続的にテレビ情報番組の放映による宣伝戦略や各種イベントを開催し新規来場者の獲得施策を進めました。また、園内で楽しめるよう回遊性の向上にも注力し、お客様満足度の向上に努めてまいりました。

この結果、売上高は51,080千円（前年同四半期比4.1%減）、セグメント利益（営業利益）は12,897千円（前年同四半期比18.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産は前連結会計年度末に比べ408,947千円増加し5,730,580千円となりました。これは主として、現金及び預金が300,169千円減少したものの、販売用不動産が580,350千円増加したこと等によるものです。固定資産は前連結会計年度末と比べ7,154千円減少し702,195千円となりました。これは主として、有形固定資産が7,154千円減少したこと等によるものです。この結果、資産合計は前連結会計年度末と比べ401,793千円増加し6,432,776千円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債は前連結会計年度末と比べ499,470千円増加し1,220,412千円となりました。これは主として、短期借入金の増加485,000千円があったこと等によるものです。固定負債は前連結会計年度末に比べ16,583千円減少し2,337,812千円となりました。これは主として、長期借入金の減少が16,875千円あったこと等によるものです。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ482,886千円増加し3,558,224千円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ81,093千円減少し、2,874,551千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年5月10日発表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,729,724	1,429,555
売掛金	56,628	52,761
営業出資金	400,000	480,000
販売用不動産	2,878,303	3,458,653
その他のたな卸資産	14,315	16,455
その他	242,660	293,154
流動資産合計	5,321,633	5,730,580
固定資産		
有形固定資産	23,837	16,683
無形固定資産		
契約関連無形資産	609,383	609,383
その他	128	128
無形固定資産合計	609,511	609,511
投資その他の資産	75,999	75,999
固定資産合計	709,349	702,195
資産合計	6,030,983	6,432,776
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,879	8,341
短期借入金	15,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	132,500	132,500
未払法人税等	19,097	9,391
賞与引当金	9,007	3,462
その他	539,458	566,717
流動負債合計	720,942	1,220,412
固定負債		
長期借入金	2,268,125	2,251,250
その他	86,270	86,562
固定負債合計	2,354,395	2,337,812
負債合計	3,075,338	3,558,224
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,133,205	1,133,205
資本剰余金	903,204	903,204
利益剰余金	921,711	840,618
自己株式	△2,476	△2,476
株主資本合計	2,955,644	2,874,551
純資産合計	2,955,644	2,874,551
負債純資産合計	6,030,983	6,432,776

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	200,059	184,833
売上原価	91,865	88,879
売上総利益	108,194	95,953
販売費及び一般管理費	152,459	152,033
営業損失(△)	△44,265	△56,079
営業外収益		
受取利息	4,523	4
持分法による投資利益	2,364	—
その他	35	35
営業外収益合計	6,923	40
営業外費用		
支払利息	14,668	7,966
資金調達費用	20	4,750
営業外費用合計	14,688	12,716
経常損失(△)	△52,030	△68,755
特別損失		
固定資産売却損	—	2,467
特別損失合計	—	2,467
税金等調整前四半期純損失(△)	△52,030	△71,222
法人税等	△18,964	9,870
四半期純損失(△)	△33,066	△81,093
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△33,066	△81,093

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純損失(△)	△33,066	△81,093
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	△33,066	△81,093
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△33,066	△81,093
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	計 (注)3
	プリンシパル インベスト メント事業	ソリューション 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	—	146,807	146,807	53,251	—	200,059
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	9,110	△9,110	—
計	—	146,807	146,807	62,362	△9,110	200,059
セグメント利益又は損 失(△)	△19,352	59,809	40,457	10,867	△95,590	△44,265

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハーブガーデンの運営事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△95,590千円には、セグメント間取引消去△9,110千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△86,480千円が含まれております。全社費用は報告セグメントに帰属しない本社の費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	計 (注)3
	プリンシパル インベスト メント事業	ソリューション 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	—	133,752	133,752	51,080	—	184,833
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	14,791	△14,791	—
計	—	133,752	133,752	65,872	△14,791	184,833
セグメント利益又は損 失(△)	△20,186	50,174	29,988	12,897	△98,965	△56,079

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハーブガーデンの運営事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△98,965千円には、セグメント間取引消去△14,791千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△84,173千円が含まれております。全社費用は報告セグメントに帰属しない本社の費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。